

## 外 国 語

### 1 教育課程の編成

#### (1) 教科の目標を達成するための教育課程編成上の留意事項

ア 生徒の学びの過程を通して、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、繰り返し思考・判断・表現することを通して獲得され、学習内容の理解が深まるなど、「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」の資質・能力が相互に関係し合いながら育成されるようにすることが重要である。

イ 小学校中学年において、外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成した上で、高学年において五つの領域の言語活動を通してコミュニケーションを図る基礎となる資質・能力の育成を目指していること、中学校において、簡単な情報や考えなどを理解したり表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力の育成を目指していることを踏まえ、高等学校においては、統合的な言語活動を通してコミュニケーションを図る資質・能力を育成するよう配慮することが必要である。

**【外国語科の目標】**

外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る

このために必要な三つの資質・能力の育成

知識及び技能

思考力、判断力、表現力等

学びに向かう力、人間性等

小学校及び中学校、高等学校で一貫した目標を実現するため、そこに至る段階を示すものとして国際的な基準であるCEFRを参考に、次の五つの領域で外国語科の各科目の目標を設定

聞くこと

読むこと

話すこと [やり取り]

話すこと [発表]

書くこと

#### (2) 各教科・科目における標準単位数や履修における順序性等

ア 科目の構成等

外国語科の各科目の標準単位数及び履修の条件は次のとおりである。

科目名	標準単位数	履修の条件
英語コミュニケーションⅠ	3単位	・必履修科目は「英語コミュニケーションⅠ」である。
英語コミュニケーションⅡ	4単位	・「英語コミュニケーションⅡ」は「英語コミュニケーションⅠ」履修後に、「英語コミュニケーションⅢ」は、「英語コミュニケーションⅡ」履修後に履修する。
英語コミュニケーションⅢ	4単位	
論理・表現Ⅰ	2単位	・「論理・表現Ⅱ」は、「論理・表現Ⅰ」履修後に、「論理・表現Ⅲ」は、「論理・表現Ⅱ」履修後に履修する。
論理・表現Ⅱ	2単位	
論理・表現Ⅲ	2単位	

各科目の構成については、五つの領域を統合的な言語活動を通して総合的に指導するとともに、中学校における学習内容の確実な定着と更なる発信力の強化を図る観点から、前ページの表のとおり、科目の構成が改善された。

#### イ 各科目の並行履修

「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」は、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」と並行履修させることが可能である。

#### ウ 標準単位数の増減

##### (ア) 「英語コミュニケーションⅠ」の単位数の増減

「英語コミュニケーションⅠ」は、課程や学科を問わず、全ての生徒に履修させる科目であり、標準単位数を下らない単位数を配当して履修させることとされている。ただし、生徒の実態及び専門教育を主とする学科の特色等を考慮し、例外的に2単位とすることができる。

##### (イ) その他の科目の単位数の増減

「英語コミュニケーションⅡ・Ⅲ」については、その単位数の一部を減じることができるが、「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」については、標準単位数が2単位であるため、減じることができない。

##### (ウ) 標準単位数を減じる場合の配慮事項

標準単位数を減じる場合は、「英語コミュニケーションⅠ」の目標を実現できる範囲で行うことに配慮する必要がある。すなわち、生徒の実態からみて、標準単位数を減じても、適切な言語活動を通して、五つの領域別に設定する目標を実現することが十分に可能であることを前提とした上で、慎重に検討される必要がある。

### (3) 特色ある教育課程の編成

#### ア 学校設定科目

従来と同様に、外国語科に関する学校設定科目については、学校において生徒や学校、地域の実態及び学科の特色等に応じ、特色ある教育課程の編成に資することができる。学校設定科目を設ける場合、当該科目の名称、目標、内容、単位数等については、外国語科の目標に基づいていること及び内容の構成については、関係する科目の内容との整合性を図ることに十分配慮する必要がある。

#### イ 英語以外の外国語

英語以外の外国語に関する科目については、英語に関する各科目の目標及び内容などに準じて指導を行うものとされている。外国語科は全ての生徒に必ず履修させる教科であり、英語以外の外国語を履修させる場合の必修科目については、学校設定科目として設ける1科目（標準単位数は3単位）と定められた。英語以外の外国語においても、英語に共通する各科目における「知識及び技能」に記載された言語材料や、言語活動を効果的に行うための指導上の配慮事項などを十分に参考にして、適切な指導計画を作成し、それぞれの外国語における指導を効果的に行うことが大切である。

## 2 指導計画の作成と内容の取扱い

### (1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

指導計画の作成に当たっては、小・中・高等学校を通じた領域別の目標の設定という観点を踏まえ、小学校及び中学校における指導との接続に留意した上で、次の事項に配慮することが必要である。

目標設定	○ 多様な生徒の実態に応じ、生徒の学習負担に配慮しながら、 <b>年次ごと及び科目ごとの目標を適切に定め、学校が定める卒業までの指導計画を通して十分に段階を踏みながら、外国語科の目標の実現を図る</b> ようにすること。
言語材料の取扱い	○ 実際に英語を使用して <b>自分自身の考えを伝え合うなどの言語活動を行う際は、既習の語句や文構造、文法事項などの学習内容を繰り返し指導し定着を図る</b> こと。
英語使用の授業での	○ 生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、 <b>授業は英語で行うことを基本</b> とすること。その際、 <b>生徒の理解の程度に応じた英語を用いる</b> ようにすること。
他教科の指導との連携や関連付け	○ 言語能力の向上を図る観点から、 <b>言語活動などにおいて国語科と連携を図り、指導の効果を高めるとともに、日本語と英語の語彙や表現、論理の展開などの違いや共通点に気付かせ、その背景にある歴史や文化、習慣などに対する理解が深められるよう工夫</b> をすること。 ○ <b>言語活動で扱う題材は、生徒の興味・関心に合ったものとし、国語科や地理歴史科、理科など、他の教科等で学習した内容と関連付けるなどして、英語を用いて課題解決を図る力を育成する工夫</b> をすること。
障がい等への配慮	○ <b>障がいのある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う</b> こと。
地域人材の活用	○ 指導計画の作成や授業の実施に当たっては、ネイティブ・スピーカーや英語が堪能な <b>地域人材などの協力を得る等、指導体制の充実を図るとともに、指導方法の工夫</b> を行うこと。

### (2) 内容の取扱いについての配慮事項

内容の取扱いに当たっては、次のことに配慮することが必要である。

意味のある場面設定や指導事項の見極め	○ 単に英語を日本語に、又は日本語を英語に置き換えるような指導とならないよう、各科目の内容の(1)「英語の特徴や決まりに関する事項」に示す言語材料については、 <b>意味のある文脈でのコミュニケーションの中で繰り返し触れることを通して指導</b> すること。 ○ 生徒の発達の段階に応じて、「 <b>聞いたり読んだりすることを通して意味を理解できるように指導すべき事項</b> 」と、「 <b>話したり書いたりして表現できるように指導すべき事項</b> 」とがあることに留意すること。
--------------------	---

<p>指導上の位置付け</p> <p>文法事項の</p>	<p>○ 文法事項の指導に当たっては、<b>文法はコミュニケーションを支えるものである</b>ことを踏まえ、過度に文法的な正しさのみを強調したり、用語や用法の区別などの指導が中心となったりしないよう配慮し、<b>使用する場面や伝えようとする内容と関連付けて整理</b>するなど、<b>実際のコミュニケーションにおいて活用できるように、効果的な指導を工夫</b>すること。</p>
<p>の提示</p> <p>具体例等</p>	<p>○ 話すことや書くことの指導に当たっては、<b>目的や場面、状況などに応じたやり取りや発表、文章などの具体例</b>を示した上で、<b>生徒がそれらを参考にしながら自分で表現</b>できるよう留意すること。</p>
<p>形態の工夫</p> <p>様々な学習</p>	<p>○ <b>生徒が発話する機会を増やすとともに、他者と協働する力を育成</b>するため、ペア・ワーク、グループ・ワークなどの<b>学習形態について適宜工夫</b>すること。その際、<b>他者とコミュニケーションを行うことに課題がある生徒については、個々の生徒の特性に応じて指導内容や指導方法を工夫</b>すること。</p>
<p>有効活用</p> <p>情報機器等の</p>	<p>○ 生徒が<b>身に付けるべき資質・能力や生徒の実態、教材の内容など</b>に応じて、<b>視聴覚教材やコンピュータ、情報通信ネットワーク、教育機器などを有効活用</b>し、生徒の<b>興味・関心をより高めるとともに、英語による情報の発信に慣れさせるために、キーボードを使って英文を入力するなどの活動</b>を効果的に取り入れることにより、<b>指導の効率化や言語活動の更なる充実を図る</b>ようにすること。</p>

### (3) 単元の指導計画作成上の留意点

単元の指導計画の作成に当たっては、次のことに配慮すること。

<p>展開のための配慮</p> <p>効果的な学習の</p>	<p>○ <b>単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成</b>に向けて、生徒の<b>主体的・対話的で深い学びの実現を図る</b>ようにすること。</p> <p>○ <b>具体的な課題等を設定し、生徒が外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせながら、コミュニケーションの目的や場面、状況などを意識して活動を行い、英語の音声や語彙、表現、文法などの知識を五つの領域（「論理・表現Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」においては三つの領域。）における<b>実際のコミュニケーションにおいて活用する学習の充実を図る</b>ようにすること。</b></p>
<p>自律的な学習</p> <p>主体的・</p>	<p>○ コミュニケーションを行う<b>目的や場面、状況などを設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を明確に示す</b>ことにより、生徒が<b>学習の見通しを立てたり、振り返ったりして、主体的、自律的に学習することができる</b>ようにすること。</p>

### 3 主体的・対話的で深い学びの実践例

#### 実践事例①

動画等を効果的に活用することで、題材についての深い学びを促し、表現の意欲を高める取組

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のため、ここでは「コミュニケーション英語Ⅱ」を例に、教科書の題材を生徒自身が身近なテーマとして捉え、「思考力、判断力、表現力等」を働かせながら課題解決への意識を高めることをねらいとした実践事例を示す。これは、写真や動画などの視覚的教材の効果的な活用を通して学習内容を充実させるだけでなく、教師が英語を用いて生徒同士の英語でのやり取りへの支援を行うことも併せて充実させることにより、授業改善に取り組んだものである。この実践事例では、生徒が、教科書に書かれた文章の背景にあるものに意識を向け、「なぜなのか」「もっと知りたい」「身近なところに、似たような問題はないか」と考え、英語の授業をきっかけにさらに学びを深め、実際の行動に移すことができるようになることを目標としている。

#### ◆ 単元の指導計画

単元名	The Little Rock Nine (全8時間)						
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1950年代のアメリカのある学校で起きた実話を基にして書かれた文章を読み、人種差別問題に興味や関心をいだくとともに、現代における差別意識の実態について考察する。</li> <li>・英語の基本的な語句や文を用いて、情報や考え、気持ちなどについてやり取りをして伝え合う。</li> <li>・やり取りした内容を踏まえ、多様な語句や文を用いて、自分の意見について論理的にまとまりのある文章で詳しく書いて伝える。</li> </ul>						
評価の観点	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解			
評価規準	積極的に読んだり聞いたりして事実や考えの理解に努め、他者と情報や考えを伝え合おうとしている。	英語を読んだり聞いたりして学んだことを踏まえ、人種差別についての自分の考えなどを、話したり書いたりして、論理的に伝えることができる。	英語を読んだり聞いたりして、人種差別に関する事実や考えなどの概要や要点を捉えることができる。	英語でのやり取りに必要な表現を理解するとともに、人種差別問題の背景にある事実や考えを理解している。			
次程	学習内容と問い			評価の観点 関 表 理 知			
第1次 (3時間)	<b>【学習内容】あるアメリカの高校を舞台に起こった人種差別について学ぶ。</b> <b>【問い】写真から何が読み取れるか。</b> ・教師は、白人少女が黒人少女に対して何かを叫ぶ様を捉えた写真を見せ、どのような場面なのか、また、何を叫んでいるのかを生徒に英語で問いかけ、推測させる。 ・生徒はペアになって、英語で考えを伝え合う。 <b>【問い】この写真は、いつどこで撮られたのだろうか。何が起きているのか。</b> ・生徒は教科書本文を素早く読み、場面の概要や要点を理解する。 ・生徒はペアになって、読んで理解したことを確認する。 ・教師は場面の概要や要点について生徒と英語でやりとりしながら説明する。 <b>【問い】黒人学生たちが入学するまでにはどんな困難があったのだろうか。</b> ・生徒は教科書本文をじっくり読み、黒人学生たちが、困難を乗り越えて学校生活を開始するまでの過程を理解する。 ・教師は当時の黒人学生や周囲の白人たちの感情、人種差別意識を生徒に想像させながら英語で説明することで生徒の理解を助ける。			○	○		
	<b>【学習内容】黒人学生たちが残した功績とこれからの社会について考察する。</b> <b>【問い】初めて入学した黒人学生たちを、どんな学校生活が待ち構えていたか。</b> ・生徒は教科書本文をじっくり読み、晴れてこの高校の生徒となった黒人学生を待ち受け					○	○



◆ 提示資料の例



Why did the soldiers refuse to let Elizabeth enter the school?

投影画面の例。投影を用いることで、単に板書量とそれにかかる時間を減らし、学びの重点化に資するだけでなく、問いかけ、生徒同士のやりとり、資料、動画、音声など、短時間にテンポよく視覚的に差し込むことができる。レッスン全体を通して生徒が英語に触れ、思考力、判断力、表現力を働かせた活動の場を頻繁に提供する仕掛けづくりが可能である。ゴールとしてのプロダクションも大切であるが、プロセスの中でこまめに英語を使う場面を設定するよう工夫する。

Com II L8 The Little Rock Nine Think about "Segregation" No.2

**[Keyword]**

<b>Segregation</b>	the act or policy of separating people of different races, religions or sexes and treating them in a different way
<b>Racism</b>	the unfair treatment of people who belong to a different race; violent behavior towards them
<b>Discrimination</b>	the practice of treating somebody or a particular group in society less fairly than others

**[The phrases you can use while talking]**

そうですね: (You're) Right. / I see. / Yes. / Uh-huh.  
 わかります: I understand. / I see. / I know what you mean. / I know how you feel. / I agree.  
 その通り!: Absolutely! / Exactly! / Indeed! / Definitely!

Topic③-1 **Does Segregation exist in Japan?** 【前編】

★Before watching: Do you think segregation(racism) exists in Japan? How?

ワークシートの例。動画等を用いる際には、リーディングを扱う際も同様であるが、Before watching, While watching, After watchingの各プロセスを意識して作成する。

◆ 評価問題の例

Write a sentence with over 10 words to complete the dialogue, not copying directly from the passage.

You: It seems inevitable to use stereotype when we judge someone.

Your friend: Why do you think we use stereotype?

You: (a) \_\_\_\_\_.

Your friend: I see. But stereotyping often leads to our negative attitude to him or her. What should we do to solve it?

You: (b) \_\_\_\_\_.

Your friend: You're right. We shouldn't depend on stereotyping too much, should we?

定期考査における評価問題の例。授業において様々な角度から差別意識や偏見などについて考え、表現しながら学習した上で、ライティングまたはスピーキングにおける表現の能力を評価する場面を設定する。ここでは、授業中にスピーキングによるやりとり、エッセイライティングによるプロダクションを行ったので、定期考査では別の切り口として、会話完成という形をとっている。授業で既に行ったタスクではなく、考査の場面でもしっかり思考力、判断力、表現力を働かせて取り組む問題となるよう作問を工夫する。

**実践事例②**

ICTを効果的に活用して五領域を総合的に扱うことで生徒の学びの幅を広げ、コミュニケーションを図る資質・能力を育成する取組

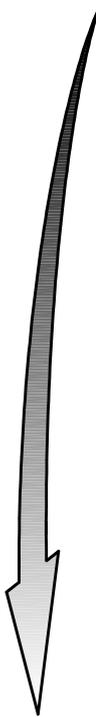
新学習指導要領において、「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ・Ⅲ」では、聞くこと、読むこと、話すこと [やり取り]、話すこと [発表]、書くことの五つの領域別の言語活動及び複数の領域を結び付けた統合的な言語活動を通して、五つの領域を総合的に扱うことがより一層求められている。

ここでは、ICTを効果的に活用し、協働作業を通して五領域を総合的に扱う「コミュニケーション英語Ⅲ」の実践事例を示す。

◆ ICTを活用し反転授業や協働学習を取り入れた単元の指導計画

単元名	Bottled Water? No Water? (全7時間)			
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界には飲料水を確保できない国々がある一方で、先進国では安全な水道水があるにもかかわらず、ペットボトル入り飲料水を大量に生産している現状を知る。</li> <li>水問題について調べ、英語の基本的な語句や文を用いて、対話・発表・ディスカッションを行う。</li> <li>水問題について調べた内容をもとに、グループで1分程度の英語CMを制作し、自分の考えを発信する。</li> </ul>			
評価の観点	関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	知識・理解
評価規準	積極的に読んだり、自ら調べたりして、英語で発表しようとしたり、他者の発表をしっかりと聞くとしている。	英語を読んだり聞いたりした内容を、要約して伝えることができる。 英語CMを制作し、感想や意見を英語で書くことができる。	英語を読んだり聞いたりして、世界の水事情や水問題が及ぼす影響・原因について、概要や要点を捉えることができる。	環境・自然に関連する語句の用法とともに、背景にある事実や考えを理解している。

次程	学習内容と問い ※ <input type="checkbox"/> の部分は、ICTを活用する場面	評価の観点			
		関	表	理	知
第1次 (2時間)	<p>【学習内容】先進国と発展途上国の飲料水事情について知る。</p> <p>【問い】ペットボトル飲料水はなぜ環境に悪影響を与えるのだろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師は単元シラバスを用いて、到達目標・評価基準を生徒と共有する。</li> <li>本文を聞いて内容が理解できているか確認し、本文を要約して相手に伝える。</li> <li>デジタル教科書を使い、新出単語や内容の把握、問題演習を行う。</li> <li>デジタル教科書を使い、本文のリピート・同時読み・シャドーイング等を行う。</li> </ul> <p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は新出単語の練習、小テストを期限内に学習用サイトで行う。</li> </ul> <p>【問い】世界の飲料水事情について知り、どのように感じたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水問題が起こる原因や理由を推測し、話し合いをする。</li> <li>生徒は教科書での学びについて、ペアやグループで英語を用いて感想や意見を述べる。</li> </ul> <p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は各国の水事情についてインターネット等で調べ、教育用SNSに投稿する。</li> </ul>	○	○		○
第2次 (3時間)	<p>【学習内容】日本や世界の水事情・影響について理解を深める。</p> <p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は他の生徒が教育用SNSに掲載した内容を、事前に読んでおく。</li> </ul> <p>【問い】実際に水問題の現状を知り、何を感じ、何に気づいただろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はお互いの調査内容についてグループで感想や意見を交換し、疑問点を整理する。</li> <li>web会議システムを用いて、途上国の水事情の専門家から実情を学び、理解を深める。</li> </ul> <p>【問い】相手に伝わる分かりやすいメッセージとは何だろうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師はCM制作のモデルとなるCMを見せ、生徒にループリクを提示する。</li> <li>生徒は各自調べたことをもとに、グループごとに絵コンテを作成・提出する。</li> </ul> <p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は教師が提示した参考CM集等をインターネット等で事前に見ておく。</li> </ul> <p>【問い】CM制作を通して自分たちの気持ちや行動に変化はあっただろうか？</p>	○		○	
第3次 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は絵コンテをもとに、動画編集アプリ等を用いてグループでCMを制作し、教育用SNSを用いて提出する。</li> <li>教師はCMを確認後、教育用SNSに掲載し、学級や学年で共有できるようにする。</li> <li>生徒はCMを観た感想やコメントを教育用SNSを用いて提出する。</li> <li>教師は優れたCMをいくつか取り上げ、生徒にフィードバックする。</li> <li>生徒は学習用サイトで自己評価アンケートを記入する。</li> </ul>	○			○



◆ 1 単位時間（第2次）の指導と評価の計画（例）

1 本時の目標			
(1) 水事情について調べてきたことについて、各グループで情報をまとめ、疑問点を整理し、専門家から話を聞くことでさらに理解を深める。			
(2) 調べてきたことや話を聞いたことを基に、分かりやすくメッセージを伝えるための方法を検討する。			
2 本時の展開（全7時間予定の3、4時間目）			
過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入		<p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒はあらかじめ同じグループのメンバーが<b>教育用SNS</b>に記入した調査内容を読んでくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が記入した調査内容に事前に目を通し、内容によってはコメントを送信する。</li> </ul>
		<ul style="list-style-type: none"> <li>調査内容についての感想などを、意見交換する。</li> </ul>	
展開		<p><b>【問い】実際に水問題の現状を知り、何を感じ、何に気づいたのだろうか？</b></p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>各個人が調べてきた情報をまとめ、グループ内で質問や疑問点を整理していく。</li> <li><b>web会議システム</b>を使い、発展途上国の水事情の専門家に話を聞く。</li> <li>グループでまとめた質問や疑問点を専門家に尋ね、さらに理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループ内で司会や書記を決めさせ、進行がスムーズになるよう促す。</li> <li>あらかじめ通信相手と打合せしておく。</li> <li>web会議システムに必要な機器の準備をする。（プロジェクター・スクリーン・カメラ・マイク等）</li> </ul>
		<p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>本時の授業で自分が感じ気づいたことを<b>教育用SNS</b>に書き込み、共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の感想を確認し、次時の最初にフィードバックする。</li> </ul>
		<p><b>【問い】相手に伝わる分かりやすいメッセージとは何だろうか？</b></p>	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>モデルとなる<b>CM</b>を見て、心に残るCMとはどのようなものか感想や考えを共有する。</li> <li><b>CM制作</b>を通して見た人にどんなメッセージを伝えたいかをグループで考える。</li> <li>調べたことや聞いたことを基に、グループごとに絵コンテを作成し提出する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>CM制作の評価に用いるルーブリックを生徒に提示し説明する。</li> <li>提出された絵コンテの内容を確認する。</li> </ul>
まとめ		<p>&lt;反転学習&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒は参考CM集やCM作成方法等を<b>動画サイト</b>であらかじめ見ておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>参考となる<b>動画サイト</b>を紹介し、見ておくよう伝える。</li> </ul>

◆ この単元で活用するICTツール

- デジタル教科書  
教科書の内容の拡大表示、文章や図表の抜き出し、書き込み等の共有、問題演習等が画面上で可能。板書の時間を削減し生徒と向き合う時間を確保し、生徒の学習の進捗・習熟の程度、学習の過程をコンピュータ上で把握できる。
- Quizlet  
フラッシュカードやゲームを使った単語学習ができるアプリ。小テストの機能もある。
- Zoom  
複数人での同時参加が可能なテレビ・Web会議ツール。オンライン上で世界中の人とコミュニケーションをとることができる。
- Quizizz  
教育用アプリ。グループを作り、その中で選択問題、穴埋め問題等を出題したり、アンケートをとったりすることができ、自動集計の機能もある。
- iMovie、GarageBand&Clips等  
動画・音楽編集アプリ。初心者でも簡単に動画の作成や編集ができる。
- YouTube  
動画共有サイト。世界中の様々な動画を閲覧できるほか、閲覧者を限定して動画を公開することができる。
- Edmodo  
教育SNS。生徒全員の意見や解答をリアルタイムで共有できるほか、写真や動画を投稿したり、予習問題や宿題を配信したりすることも可能。小テストの自動採点機能や成績を記録しExcelで出力する機能もある。パスワードで閲覧制限可能。

# Topic

## 海外の外国語教育事情について

道教委では、「高等学校英語力向上事業」や「U-18未来フォーラム」などの取組に加え、小・中・高等学校ごとに実施していた英語力向上に係る事業の成果と課題を踏まえ、「小・中・高等学校英語教育支援事業」を実施し、小学校3年生から10年間の系統的な指導体制を整備することとしている。小・中・高等学校を通して、児童生徒が「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」のバランスのとれた英語力や、主体的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するために、諸外国の先進的な事例からヒントを得ることもできる。ここでは、海外の外国語教育について、特徴的なものを紹介する。

### フィンランドの英語教育

#### ● 「ヨーロッパ言語ポートフォリオ (European Language Portfolio:ELP)」の活用

ヨーロッパ言語ポートフォリオ(ELP)とは、欧州評議会が認定する言語学習、異文化学習等についてのポートフォリオ。「言語パスポート」や「言語学習記録」などから構成されている。

##### 「言語パスポート」

所有者の言語に関する資格、CEFRレベルを基盤とした自己評価等を記載。総括的評価の役割。

技能は、「Listening」、「Reading」、「Spoken Interaction」、「Spoken Production」及び「Writing」からなる。

自己評価に加え、教師による評価、言語関係の学位、教育関係当局による評価（資格など）も記載でき、言語能力を証明するパスポート的な役割を担う。

##### 「言語学習記録」

学習者が言語学習の計画、学習過程、学習進捗を観察し、言語及び異文化学習の記録を残す形成的評価の役割。自己評価を行う助けとなる言語学習ダイアリーのようなもの。

技能別に達成すべき目標が詳細に記されており、学習者はそのチェックリストに照らし合わせて、自己の言語学習を省みて、今の自分に必要なことを考え、次の目標を立てるのに活用する。

自己の英語力の記録となるだけでなく、転校、進学、就職活動等において、自己の言語能力を示すためにELPを提示することができる。

### シンガポールの英語教育

#### ● 英語教育シラバスの特徴（6つの学習分野の設定）

聞き取り力 (Listening and Viewing)	・ブレインストーミング、コンセプトマッピング、写真や図表を活用。クリティカルリスニングの教科、相手の話を理解して議論できる正確な聞き取り力の養成等
読解力 (Reading and Viewing)	・文章の前部から後部に読み進める方法、後部から前部に読み進める方法など、場面ごとの目的に沿って対応できる読書方法の指導等
会話表現力 (Speaking and Representing)	・プレゼンテーションにおける話のペース、声の大きさや強弱に加え、視覚・音声素材、言語表現、言語表現以外の効果、聴衆の理解や同意を得る表現方法等の指導等
筆記表現力 (Writing and Representing)	・文法等の正確性を踏まえ、批判的思考や想像力を伸ばし、文章の全体構成を考え、様々な情報を整理、集約して考えをまとめ、効果的に趣旨を伝える表現方法の指導等
文法 (Grammar)	・コミュニケーションにおける正確な文法の有用性を生徒に理解させ、過去の文法学習に反復をしながら、新しい文法知識を指導
語彙 (Vocabulary)	・文脈における言葉の意味や定義等を理解し、様々な場面に応じた適切な語彙選択ができるよう、聞き取り力、読解力、会話表現力及び筆記表現力と関連付けて指導